

ご自由にお持ち帰り下さい



みんながチームの一員として.....1

住みなれた地域で安心して暮らすために2

地域包括ケア病棟のリハビリの紹介3~4

こころのサプリメント..過去でなく未来でもなく、今5

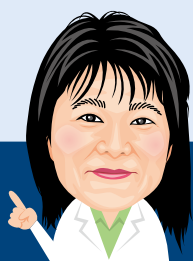
Medical Healthy Recipe..美味しい旬の野菜「インゲン」.....5

若松苑の医療介護 DXの取り組み6

介護老人保健施設 若松苑 理念6



法人施設内のひまわり畑



みんながチームの一員として

アガペ会 理事長 涌波 淳子

30年以上前に義母が寝たきりとなり病院で長期療養をしていた時、「看護師さんたちが気が利かない」と細かく事例をあげ愚痴をこぼしつつも最後には「病院を追い出されたら困るから黙っている」と辛い気持ちを押し殺している義父の姿をみていました。それから年月が過ぎ、最近、看護師をしている県外の友人から「母の入院先の病院のケアは良くないので、面会に行くたびに一つ一つスタッフを指導しているのよね」という言葉を聞くようになりました。どのような病院なのか、どのような言い方で彼女が話しているのか分かりませんが、高齢者医療に携わっている私には他人事とは思えず、病院のスタッフは大丈夫かなと心配になりました。

人間関係は「合わせ鏡」と言われます。相手が自分を信頼しているか、快く思っているか否かは、言葉に出していなくても伝わり、信頼している相手、好ましいと思っている相手にはより多く関わりたいと感じますし、反対に相手が不信感で一つ一つの行動をチェックしていると思うと失敗しないようにと緊張し、必要最小限の行動にとどめようとしてしまいます。義父もこの友人も愛する家族のために一生懸命なのにその気持ちは、スタッフ達にとって受け取りにくいもったいないやり方だったと残念に思っています。

医師の指示が絶対的で看護師も患者もそれに従うという医療は昔の話になり、現在は、チーム医療として患者さんを中心

に、医師を含め医療・介護スタッフが診療計画やケアプラン等を作成して、患者さんの同意を得て医療を提供する形に進化しました。本人も家族も医療や介護計画を実行するチームの一員であるという考え方です。

チームが目的を達成するためには、

- ① 共通の目的、目標
- ② 良いコミュニケーション
- ③ 全員で頑張る意欲

が必要とされています。

私たち医療介護スタッフもご家族も目指しているのは、「療養者ご本人の幸せ」だと思います。その為には、お互いに必要な事はきちんと話す事が基本となりますが、それは一方的な依頼ではなく、お互いに相手を信頼し、一緒に目的を目指している仲間としてのコミュニケーションであるべきです。

療養者にとってスタッフやご家族の笑顔は辛い治療や療養生活の励みになるのと同じように、医療介護スタッフにとって療養者やそのご家族の笑顔は明日の仕事の活力になります。昨今は様々な職場において「カスタマーハラスメント（以後カスハラと略）」という言葉が飛び交っており、厚労省もカスハラマニュアルを作成していますが、「同じチームの一員である」と意識すると必然的にどのような言動が最終的に愛する人を幸せにするのか分かるのではないかと思います。療養者もご家族も職員も地域もみんなが幸せになれるチームを目指したいと思います。

住みなれた地域で安心して暮らすために

～生活の中で不安なこと、相談したいことはありませんか？～

宜野湾市地域包括支援センターふてんま 岡 千佳代 (主任介護支援専門員)

「地域包括支援センター」は、市町村が運営している機関で、高齢者のみなさんが住みなれた地域で安心して暮らしていけるように、介護、福祉、健康、医療など、さまざまな面から高齢者やその家族を支えています。高齢者ご本人やご家族、地域住民、ケアマネジャーなどから受けたいろいろな相談ごとを、適切な関係機関と連携して解決に努めま
ず。困ったことがあれば、お住いの市町村の地域包括支援センターへご相談ください。

総合相談

生活や健康について、高齢者についての心配ごと、介護での疲れや悩みなど、なんでもご相談ください。

- 体力の低下が感じられるので、運動できるところに通いたい
- 高齢の親が、もの忘れが多くなっていて認知症が進んでいかないか心配
- 最近引っ越してきたばかりなので、友だちをつくりたい

介護予防ケアマネジメント

体力の低下や日常生活に援助が必要となった高齢者の方へ、市町村が行う介護予防のための事業をご案内します。

権利擁護

将来、認知症などで判断能力が衰えた場合に備えて、「成年後見制度」を利用して、後見人を選んでおくことができます。「成年後見制度」は、財産の管理や契約のときに不利益をこうむったり、悪質商法の被害にあわないよう、権利と財産を守る制度です。

※高齢者虐待防止への対応……虐待を発見したり、虐待があると思われたときは、迷わず地域包括支援センターや市町村に連絡してください。

暮らしやすい地域づくり

地域包括支援センターは、住民や民生委員、民間事業所、医療機関などの関係機関と協力して、地域の高齢者を見守るネットワークづくりを進めています。

一人で抱え込まず、
お気軽にご相談ください。

宜野湾市内に4か所の地域包括支援センターが設置されています。

- 地域包括支援センターふてんま (普天間中学校区)
☎ 098-943-4165
- 地域包括支援センターかいほう (真志喜中学校区)
☎ 098-942-8377
- 地域包括支援センターぎのわん (宜野湾中学校区)
☎ 098-896-1339
- 地域包括支援センターふれあい (嘉数中学校区)
☎ 098-897-4165



退院後の生活を見据えた 地域包括ケア病棟のリハビリの紹介

生活期リハビリ課 主任 金城 良和（理学療法士）

私たちの地域包括ケア病棟は、「もう一度、自分らしい生活を取り戻したい」という患者様の願いに寄り添い、その実現を全力でサポートしています。急性期病院での治療を終えた方、あるいはご自宅から直接入院された方が、安心して次の生活ステージへ進めるよう、医療と生活支援の両面から支援しています。退院後も「その方らしい暮らし」が継続できるよう、個別リハビリテーションと生活リハビリを組み合わせた、きめ細やかな支援を行っています。

リハビリテーションの特徴

個別リハビリと生活リハビリ

当院では、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が連携し、身体機能の回復を目指した「個別リハビリ」を提供しています。特に、言語聴覚士の手厚い配置は当院ならではの強みで、嚥下機能やコミュニケーション支援にも力を入れています。また「生活リハビリ」では、日常生活そのものをリハビリの場と捉え、「食べる」「入浴する」「トイレに行く」などの日常動作を自然に行えるよう、看護師・介護職・リハビリ職員が一体となりサポートしています。院内の中庭を活用した歩行訓練や、季節の花々を楽しみながらのリハビリは、心身の活性化にもつながっています。

“家に帰る”を現実にする

退院後の生活を具体的にイメージしながら、動作練習はもちろん、ご自宅の手すり設置や福祉用具の選定まで、きめ細かくご相談に応じています。希望される方には、リハビリスタッフが患者様と一緒に実際の自宅を訪問し、環境や動線の確認を行います。必要に応じて看護師も同行し、安心して退院できるよう多職種でサポートしています。

チーム医療で支える安心のケア

医師を中心に、看護師・介護職・相談員・栄養士・薬剤師・リハビリがー丸となって、その方に最適な支援計画を立てます。定期的なカンファレンスで情報共有を行い、患者様一人ひとりの目標達成に向けて柔軟に対応しています。

心に寄り添うケアの実践

病気やけがによる不安は、心にも大きな負担をかけます。当院では、患者様の心の声に耳を傾け、安心して療養生活を送っていただけるよう、心のケアにも積極的に取り組んでいます。ふとした会話の中から不安や希望をくみ取り、少しでも前向きな気持ちで日々を過ごせるよう支援しています。

ご家族も一緒に生活支援

ご家族の介護への不安に対しては、介護のコツや歩行器・車椅子の正しい使い方など、実際に体験しながら学んでいただける機会を設けています。これにより、ご家庭での介護がよりスムーズになり、ご家族の負担軽減にもつながっています。

地域とともに歩む退院支援

地域の通所リハビリ、訪問看護、訪問介護、介護施設などと密接に連携し、退院後のフォローアップにも力を入れています。患者様が住み慣れた地域で、安心して自分らしい生活を続けていけるよう、私たちは常に「つながり」を大切にしています。



歩行訓練の一環として中庭で季節の花々を楽しむ様子です
※写真は本人の承諾を得て掲載しています



「やっぱり家が一番」「自分のペースで暮らしたい」そんな患者様の声に、私たちは真摯に向き合っています。当院は、医療だけでなく、生活全体を見据えた包括的なサポートを大切にしています。治療やリハビリが必要になった際は、どうぞお気軽にご相談ください。皆様が笑顔で地域に戻れるよう、スタッフ一同心よりお手伝いさせていただきます。

過去でなく未来でもなく、今

チャブレン室 金 知明

昔のことを思い出して「もっとこうしていればよかった」と感じる場合があります。これからのことを考えると、期待や楽しみだけでなく「うまくやっていけるだろうか」と不安になることもあります。そんなときこそ、過去や未来につながる「今このとき」を大切にすることが、私たちの心を落ち着かせてくれます。

「明日のことまで心配しなくていい。明日のことは明日が心配する。」(聖書：マタイ6章34節)という言葉は、後悔や心配が先立つ心へ「今ここにあるものをみつめてごらん」という神様からのやさしいメッセージです。

認知症の方の何気ない言葉や、ふとしたときの笑顔に「今ここにいる幸せ」を感じることがあります。たとえ過去を思い出せなくても、明日が見えなくても、今このときを一緒に過ごす時間が心を満たしてくれるのです。

暑い日の中にも、ちょっとした会話の中にも、日常には小さな幸せがたくさんあります。介護や心身のケアは決して楽しいことばかりではありませんが、それでも日々の中には「隠れた輝きを放つ幸せのかげら」が確かにあります。今日もその宝物を探しに出かけるのです。



チャブレン室
「こころのサプリメント」

Medical
Healthy
Recipe



美味しい旬の野菜「インゲン」

若松苑 栄養課
内嶺 みゆき (管理栄養士)

インゲンの旬は6月から9月で夏の緑黄色野菜です。この時期に収穫される物が最も美味しく、栄養価が高いとされ、老化を防ぐβ-カロテン、高血圧予防につながるカリウム、代謝を助けるビタミンB群、便秘の解消に効果的な食物繊維など豊富に含まれています。

インゲンは天ぷらや和え物、チャンプルーなど幅広く調理できます。インゲンに含まれるβ-カロテンは脂溶性ビタミンといわれ、油を使うことで効率よく摂取できます。そこで、今回は沖縄の家庭での定番、「インゲンと魚肉ソーセージの天ぷら」をご紹介します。インゲンの緑と魚肉ソーセージのピンクとの色彩に美味しさも倍増しますよ(^^)♪



いんげんと魚肉ソーセージの天ぷら

【作り方】

- ① 魚肉ソーセージは縦に4等分に切る
- ② インゲンと①に小麦粉をまぶす
- ③ インゲンと魚肉ソーセージを合わせ衣につけ、180℃の油で揚げる
- ④ 揚げ上がりにお好みで塩を振る

<材料 (2~3 人分)>

- インゲン ……7~8 本
- 魚肉ソーセージ ……1 本

- 小麦粉 ……大さじ 1
- 卵 ……1 個
- 揚げ油

<沖縄風天ぷら衣>

- 小麦粉 ……100g
- 溶き卵 ……1 ケ分
- 塩 ……1 杯
- 水 ……適量

若松苑の医療介護DXの取り組み

入所介護課 介護課長 座間味 哲夫（介護福祉士）

介護DX（デジタルトランスフォーメーション）とは

医療・介護分野において、ICT（情報通信技術）やデジタル技術を活用して業務の効率化・質の向上・持続可能な体制作りを目指す取り組みで、記録のデジタル化や介護ロボット、センサー、AIカメラなどを活用し、介護業務の負担軽減や転倒事故などのリスク管理の簡素化などの生産性向上を目指す取り組みです。



若松苑では2024年5月より、厚労省が進める介護DX推進の一環として介護ソフトの「ケアカルテ」と音声で記録が出来るアプリ「ハナスト」を導入しました。

若松苑が導入した「ハナスト」は介護職員が1人1台携帯端末（iPhone）と骨伝導ヘッドセットを所持し、装着し音声で食事の摂取量、入浴、排せつ、その他の記録を入力することができます。これまでのチェック表など

に書き記した記録をPCに入力し直す転記作業がなくなり、業務負担の軽減とペーパーレス化が可能となりました。またハナストには職員連絡機能もあり、職員間の連絡でも活用でき、より連携がしやすくなりました。

現在は介護職だけの取り組みとして行っていますが、今後は他職種も含め、医療介護DXに取り組みながら、アガペ会の医療・介護の質の向上に努めていきます。



介護老人保健施設 若松苑 理念

障がいや疾病を抱えながらも その人が望む生活がおくれるように
ご家族も共に支えていきたい

入院治療を終えた後たとえ、障がいや疾病が残ってもその人が望む生活がおくれるようにご家族も共に支えていきたいと思ひます

生活歴や価値観等を尊重したその人が望む生活がおくれるようにご家族、地域の方々、関係機関等と協力しリハビリと介護を提供し生活を支える医療と看護をチームで提供していきたく思ひます

これからもできる限り、住み慣れた地域の中でその人が望む生活がおくれるように地域で支えあう、介護予防にも努めていきたく思ひます



アガペ会理念

アガペ (神の愛) に生かされ、アガペ (神の愛) に生きる

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい (聖書 ヨハネ福音書13章34節)

《理念の意味》 アガペとは「神様の愛」というギリシャ語です。私たち職員は、神様と周囲の多くの方々に愛されて生きてきた事を感謝し、神様が愛されている目の前の療養者・利用者とそのご家族の皆さんの幸せ、職員とその家族の幸せ、地域社会の方々の幸せを目指して医療とケアを提供していきます。

北中城若松病院

〒901-2395 沖縄県北中城村字大城 311
☎/098-935-2277 FAX/098-935-2272

- ・地域包括ケア病棟
- ・回復期リハビリ病棟
- ・認知症治療病棟 (休床)
- ・特殊疾患病棟 (認知症の方も含む)
- ・認知症デイケア あしやぎ

介護老人保健施設 若松苑

〒901-2314 沖縄県北中城村字大城 327
☎/098-935-5858 FAX/098-935-5807

- ・入所療養介護
- ・短期入所療養介護
- ・若松苑デイサービス
- ・若松苑訪問リハビリテーション

地域医療包括ケアセンター

複合型高齢者施設 ふれあいの里 若松

〒901-2311 沖縄県北中城村字喜舎場 360-1

3F サービス付高齢者住宅 アガペファミリエ ☎/098-935-4165

2F グループホームわかまつ ☎/FAX/098-935-1021

1F ファミリークリニックきたなかぐすく
☎/098-935-5517 FAX/098-982-0708

B1F 通所リハビリテーションきたなかぐすく ☎/098-982-0717

訪問看護ステーション若松 ☎/098-935-5818

訪問リハビリテーションきたなかぐすく ☎/098-923-3154

ヘルパーステーション若松 ☎/098-935-5202

ケアプランステーション ゆい
☎/098-935-3066・098-935-5968

地域医療包括ケアセンター事務所 ☎/098-935-3093
クリニック以外の事業所の FAX は 098-935-5855 (共通)

看護小規模多機能ホーム若松 きたなかぐすく

〒901-2316 沖縄県北中城村字安谷屋 1346 番地 1 (1F)
☎/098-982-0181 FAX/098-982-0183

グループホーム若松 ぎのわん

〒901-2201 沖縄県宜野湾市新成 1-20-6
☎/098-892-5104 FAX/098-892-5111

小規模多機能ホーム若松ぎのわん

〒901-2206 沖縄県宜野湾市愛知 2-3-2
☎/098-892-1673 FAX/098-943-1085

宜野湾市地域包括支援センター ふてんま 新オレンジサポート室

〒901-2202 沖縄県宜野湾市普天間 1-9-3
☎/098-943-4165 FAX/098-943-4067 (ふてんま)
☎/098-943-4085 FAX/098-943-4702 (新オレンジサポート室)

宜野湾市赤道老人福祉センター

〒901-2205 沖縄県宜野湾市赤道 1-5-17 ☎/098-893-6400

宜野湾市伊利原老人福祉センター

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐 4-3-17 ☎/098-890-7131

老人デイサービスセンターしおさい

〒901-2321 沖縄県北中城村字美崎 262 ☎/098-935-5190

<https://www.agape-wakamatsu.or.jp>

※今号で使用している写真はご本人の同意を得て掲載しております

